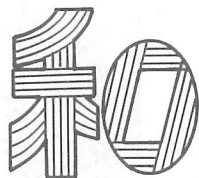


農業振興会

10周年を迎える

をモットーに

強固な組織と活動力



昨年は県知事表彰

農業祭などでおなじみの農業振興会（橘川  
陸会長）が、ほどなく十周年を迎えます。  
農業をとりまく情勢は極めて厳しいものが  
ありますが、それだけに充実した活動を続け  
るこの会への注目が、町内外から寄せられてい  
ます。

町内の関係団体を一本化した  
このような組織は県下でも類が  
ないと言われています。

稲作・園芸・果樹・養豚・酪  
農・肉牛・養鶏・たばこ・梅林・  
養蚕・青年・生活改善の各部会  
に、新たに機械部会を加え、都  
合十三部会から成るこの農業振  
興会は、現在五百名を超える会  
員数を誇っています。

会の性格は、営農の近代化、  
生産性の向上などを目的とした  
研究グループで、会員条件など  
の制約も少ない任意団体ですが、  
農家の大半が加入している現状  
から、今や町農業の象徴的な存  
在にさえなっています。

誕生の経緯は、食糧増産の時  
代に、稲作の研究を主目的とし  
て設立された農事研究会が、時  
代の変遷から発展的解散をし、  
膨れ上がった各種団体を一本化  
して結成したのが昭和四十八年  
度のことでした。

以来十年、この会の生みの親

ともいえる故伊藤一初代会長（北  
清水）から、伊藤利雄さん（長  
倉）、伊藤専造さん（北清水）、  
市原一郎さん（鳥喰下）、橘川  
隆さん（中台）と、五代にわた  
り格好のリーダーに恵まれ、順

橘川会長にきく

レベルアップした町農業

振興会十年の成果  
は

町の農業が、他  
町村に比べ確実に  
レベルアップした。  
一例をあげれば

昨年、冷害を予測して特別  
講演会を開いた。その結果今  
年は被害を最少限に食い止め  
ることができた。

このように、常に先々を見  
越した研究が進んで、農業の  
質を高めている。

ここまで順調にきた理由は



調に発展を続けて、昨年は栄誉  
ある県知事表彰をうけました。  
その活動内容も、各部会の活  
発な研究活動を中心に、部会相  
互の交流や時局に際しての講演  
会・討論会など、幅広くしかも  
実のある内容となっています。

異色なものとしては、婦人の  
みなさんによる生活改善部会で  
創造性豊かな主婦像を求めての  
研究活動は、県郡から高い評価  
をうけています。

また振興会は、農業祭や共進  
会などを通じて、新鮮な産物を  
供給し、一般の方々にも広く知  
られるようになりました。

このように組織化された活動  
形態は県下では例がなく、県の  
指導者をして「横芝町を解剖し  
てみたい」と言わしめたほどで  
す。

異常気象の連続、農産物の自  
由化要求など、農業をとりまく  
情勢は極めて厳しいものがあり  
ますが、それだけに町内外から  
一段と強い注目が寄せられるこ  
とでしょう。

他町村のモデルとして、また  
町農業の豊かな発展を期して、  
一層の飛躍が期待される農業振  
興会です。

会員の自覚と旺盛な活動力が  
あつてこそだが、まとめ役に人  
材が多いことも見逃せない。と

りわけ故伊藤一初代会長の功績  
は多大だ。歴代町長の理解と普  
及所の指導にも感謝したい。

会運営上最も心掛けている点は  
歴代会長が心の面を強調し、

大切にしてきたことが、互い  
の人間関係を良好にし、会の  
結束と発展につながった。人  
の和が第一であるという信念  
には私も変わりはしない。

運営上難しい点は  
あくまで研究団体で、即刻  
利益につながるような性格で  
はないので、日程を組むには  
神経を使っている。

今後の見通しは  
多難な時代を迎え、今まで  
以上にみんなで知恵を出し合  
い、助長し合う必要がある。

幸い人材も豊富であり、期  
待にそいえるだけの活動が今  
後も続くものと確信する。